

高圧ガス施設等津波被害軽減対策事例シート

<b>整理番号</b> 12	<b>実施項目</b> 津波監視モニターの設置	
<b>大項目</b> 情報収集・伝達体制	<b>細項目</b> 情報収集体制	<b>関連事例</b> 11、13
<b>実施対象施設</b> 計器室等	<b>実施費用</b> 数百～千万円程度	<b>実施に要する期間</b> 数週間～数ヶ月程度
<b>津波被害事例等</b> 津波襲来の覚知が遅れることによる逃げ遅れ、初動対応の遅れなどが考えられる。		
<b>津波対策事例</b>  <p>【津波監視モニター】            常時、海岸方向を監視し、津波の来襲状況を即時に把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カメラ設置箇所・個数               <ul style="list-style-type: none"> <li>・製造所地区を囲む3方向の運河監視用各1台（計3台）</li> <li>・運河の護岸に近いプラントの一番高い構造物のトップや護岸脇の資材倉庫屋根上に設置</li> </ul> </li> <li>○モニター設置箇所               <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災本部（4分割画面）</li> <li>・常時は出荷棧橋とその近傍を監視し、地震発生時は特に運河方向の津波の監視に重点を置くが、必要によりカメラの向きを遠隔操作することにより、プラント等の状況も常時把握できる。</li> </ul> </li> <li>○活用方法               <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波警報が発表された場合、防災本部にて、各運河の監視を行い、従業員及び棧橋で作業する全ての作業員へ構内放送等により直ちに緊急措置及び避難指示を行う。</li> <li>・地震発生後の停泊中の船舶や離着棧の状況、棧橋や護岸の健全性、運河を航行している船舶の動向、津波来襲の状況などを遠隔から監視し、必要に応じて装置のプラントの状況、発災の有無、避難経路の安全性の判断などの確な避難指示等に役立てる。</li> <li>・映像を記録、検証することで対策の向上を図る。</li> </ul> </li> </ul>  <p style="text-align: center;">モニター設置状況</p>		
<b>要点</b> 津波到達に関する情報を補完あるいは自ら把握するために設置し、避難指示などに活用することにより津波被害の防止に有効である。		